

2021年11月

教会学校校長及び教師
教会・伝道所牧師及び役員
キリスト教関係施設及び学校 皆様へ

第41総会期
日本基督教団教育委員会
委員長 増田 将平

2021年度 全国教会学校クリスマス献金のお願い

クリスマスを迎えるにあたり、主の恵みのもと、宣教の業に励んでおられることと思います。わたしたちは「みんなで生きよう」との主題のもと、世界と日本で子どもたちと共に生き、喜びと苦しみを一緒にしようと、多くの子どもたちの協力を得てクリスマス献金をささげてきました。今年には以下のような計画を立てました。ご協力をお願いいたします。

<募金計画>

主 題：「みんなで生きよう」

ミャンマーの人びとと共に

アイヌのおともだちと共に

東日本大震災で被災したおともだちと共に

全国の教会の子どもたちと共に（「教会学校応援セット」）

献 金 先：ミャンマー パプテスト コンベンション（MBC） *20の団体が所属
特定非営利活動法人 ミャンマー ファミリー・クリニックと菜園の会（MFCG）
北海教区 アイヌ民族情報センターとアイヌ奨学金キリスト教協力会
東北教区 放射能問題支援対策室いずみ
教会・伝道所の教育活動支援（「教会学校応援セット」として）
～上記のほか、緊急に必要なところに献金の一部をお送りする場合があります～

献金目標：800万円

期 間：2021年12月1日～2022年3月31日

送 金 先：〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31
日本基督教団教育委員会 クリスマス献金係 振替「00150-8-27638」
電話：03-3202-0544 ファックス：03-3207-3918 Email：kyouiku-c@uccj.org

※子ども向け広報誌「みんなで生きよう」をご活用ください。さらに部数が必要な場合はご請求ください。

※「みんなで生きよう」の送付部数が多い場合は、お手数ですが、電話、ファックス、メールにてご連絡下さい。次年度より部数を減らしてお送りします。

※この趣意書はコピーしてご利用いただけます。献金の説明や教師会などで趣意書が用いられることを期待しています。

※昨年に引き続き、クリスマス献金用のポスターは作成していません。

2021年度 クリスマス

主の御名を賛美いたします。神さまが独り子を与えてくださるほどに私たちが愛された喜びを、また誰かと分かち合いたい。そのような喜びを分かち恵みの時として、日本基督教団教育委員会ではクリスマスの時期をとらえて、皆さまに献金の呼びかけをさせていただきます。今年は次の4件に献金を献げたく、ご案内をいたします。

ミャンマーの人びとと共に：

1. ミャンマー バプテスト コンベンション(MBC)を覚えて

ミャンマーでは2021年2月1日に軍事クーデターが発生しました。それに対し、多くの市民はデモなど非暴力の抵抗をしました。しかし、クーデターで実権を握った国軍により、多くの市民が無差別に射殺され、また空爆で家・家族を失いました。市民によるインターネットを使った世界に向けての発信も、国軍による取り締まりのため、今は出来ない状況が続いています。

新型コロナ感染拡大の中での病院閉鎖、そして今後さらに食料、水、薬の不足が心配されています。ミャンマーのキリスト教会の中で大きな教団「ミャンマー・バプテスト・コンヴェンション」(MBC)に献金を送り、困難の中にいるミャンマーの子どもと大人たちのために役立てて欲しいと思います(MBCは18のグループと2つの大きな教会、20団体が所属しています)。

2. 特定非営利活動法人 ミャンマー ファミリー・クリニックと菜園の会(MFCG)を覚えて

ミャンマーで医療活動を行うクリスチャン医師・名知仁子(なち・さとこ)さんが代表理事を務めるNPO法人「ミャンマーファミリー・クリニックと菜園の会」。ミャンマーでは、5才までに命を落とす子どもの人数が1000人中52名(日本は3名)で、原因の多くは出産時の出血等(47%)、栄養不良(31%)、感染症(22%)です。全人口の70%が住む農村部では、電気や清潔な水、最低限の医療、食べ物を得るのが難しい状況です。名知さんは、国境なき医師団のメンバーとして国際医療活動にかかわった後、病気を治療するだけでは根本的な解決にはならないと、2012年、NPO法人「MFCG」を設立しました。活動拠点はヤンゴンの西、デルタ地域のミャウンミャで、15の村を移動クリニック車で巡回し、ミャンマーの無医村に医療・菜園を通じ保健衛生・栄養などを学ぶ機会を提供しています。NPO法人「MFCG」の活動の柱は(1)巡回診療(移動クリニック)、(2)保健衛生指導、(3)栄養を賄うための家庭菜園支援、の3つです。今も不安定な情勢の中、ミャンマーで活動を続けておられる名知先生の活動を支援させていただきたいと思います。

アイヌのおともだちと共に

3. 北海教区アイヌ民族情報センター と アイヌ奨学金キリスト教協力会を覚えて

わたしたちが北海道と呼んでいるところは、先住民族であるアイヌ民族の人たちが自然と共に生きてきた土地で、アイヌの言葉でアイヌ・モシリ「人間の土地」といいます。けれど日本が近代国家として歩むなかで、アイヌ民族の人たちはそれまで住んでいた土地での生活、文化や言葉も奪われてきた歴史があります。そうした過去の歴史を反省するなかから、今現在「アイヌ民族の権利回復と差別撤廃を教会が宣教課題として取り組むことを目的」として北海教区アイヌ民族情報センターが開設されています(1996年)。この働きのひとつに「アイヌ奨学金キリスト教協力会」があり、1988年からアイヌ民族の修学・人材養成・国際交流に対する支援を行ってきました。この奨学金制度は、先住民族との文化交流やアイヌの子どもたちの学習教室支援のためにも用いられています。アイヌ民族の人々の生活はいまだに苦しい状況に置かれており、進学率も低いままです。現在高校生2名、大学生3名が奨学生として学んでいます。どうか、そのような環境の中で、親子ともども努力し、進学、卒業へと進んでおられる方々を覚え、お祈りください。

東日本大震災で被災したおともだちと共に

4. 東北教区放射能問題支援対策室いずみを覚えて

「あの日放射能に晒された子どもたちへ～甲状腺検査はせめてもの贈り物」

(「いずみ」ニュースレター15号2020年12月19日発行より)

2011年3月11日の東日本大震災より10年を迎えました。今も長期にわたり懸念されるのは、東京電力福島第一原子力発電所事故による被曝問題です。放射性ヨウ素、放射性セシウム137などによる健康影響が最も大きいのは子どもたちです。2013年秋、そうした子どもたちとご家族の不安を少しでも取り除こうと、医師による健康相談や甲状腺エコー検査、保養プログラムなどを行うため、東北教区放射能問題支援対策室いずみは発足しました。

東北教区放射能問題支援対策室いずみの具体的な活動は以下の通りです。

- ①甲状腺検査や健康相談
- ②外でのびのび遊んだり、ゆっくりできる親子保養プログラム
- ③放射能で困っている人たちを支え、つなげるコミュニティーづくり

特に近年は「子ども被ばく裁判」「津島原発訴訟」の支援なども行っています。

これらの支援活動は長期にわたって続ける必要があります。そうしたことを覚え、今年度も教育委員会は「いずみ」へ献金をお届けすることを決定いたしました。

***それぞれの団体の活動は、各団体のHP(ホームページ)でもご確認いただけます。**

どうぞ『みんなで生きよう』誌と併せて、教会学校の子どもたち、幼稚園・保育園・学校の子どもたちにご紹介くださり、またそれぞれの働きのためにお祈りください。

5. 教会学校のおともだちと共に：「教会学校応援セット」

皆さまから献げられた献金は、上記4件のほか、日本基督教団教育委員会が実施している「教会学校応援セット」贈呈のためにも用いられます。教会学校(子どもの教会)を再開したい、活性化させたいという祈りに少しでも寄り添うことができるようにと、「聖書・こどもさんびか」、「聖書絵本のセット」、「ヒムプレーヤー」を贈ってきました。

教会学校に集う子どもたちの祈りが、豊かに聴かれるクリスマスとなりますよう祈っています。

【「教会学校応援セット」応募に関して】 *締め切りは 2022年1月31日

応募を希望する教会・伝道所は教師会または役員会でご検討いただき、教団教育委員会にお申し込みください。「教会学校応援セット申込書」は所定の用紙がありますので、委員会までお問い合わせください(電話：03-3202-0544)。

「申込書」に必要事項をご記入のうえ、ファックス(03-3207-3918)またはメール(Email: kyouiku-c@uccj.org)でお申し込み下さい。応援セットをお届け後に委員会より様子をお伺いしますので、連絡先は詳しくご記入ください。 締め切りは 2022年1月31日です。(厳守)

※過去に「教会学校応援セット」の贈呈を受けられた教会・伝道所は3年間応募をご遠慮下さい。

※申込書に記載された《活動予定》・教会規模等を考慮のうえ、2月開催の教育委員会にて選定および決定いたします。結果はお電話でご連絡いたします。

※「教会学校応援セット」贈呈後に簡単な「報告」を提出していただきます(締め切り7月31日)。

コース内容

(A) 聖書10冊、こどもさんびか10冊、「伴奏譜」1冊 (3教会)

*「聖書」は口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳の中からお選び下さい。

*「こどもさんびか」は「1987年度発行」か「改訂版こどもさんびか」をお選び下さい。

(B) 聖書物語絵本と紙芝居、教材とカードのセット (3教会)

(C) ヒムプレーヤー 1台 (2教会)

昨年度(2020年度)クリスマス献金 感謝報告

2020年度のクリスマスも「みんなで生きよう」という主題のもとで献金をお願いいたしました。日本全国各地より、教会学校ばかりではなく、キリスト教学校、幼児施設、そして個人、団体から、心のこもった貴い献金を寄せていただきました。ありがとうございました。教育委員会で検討した結果、献金の配分については、以下のようにさせていただきました。

献金総額：6,511,941円（合計421件 2020.4.1～2021.3.31）

送り先・金額：

アジアの人びとと共に《現地の保健ワーカーを育成し、人々の自立をサポート》

- | | |
|--|-------|
| ① 公益財団法人アジア保健研修所(AHI) | 180万円 |
| 東日本大震災で被災したおともだちをおぼえて《甲状腺検査・親子保養プログラム》 | |
| ② 東北教区放射能問題支援対策室いずみ | 180万円 |
| 緊急支援《パレスチナ・ガサ地区》 *2018年度献金先 | |
| ③ アハリー・アラブ病院(聖公会エルサレム管区運営) | 50万円 |

「教会学校応援セット」として(3教会) 424,571円

Bコース(絵本・紙芝居)：白岡菖蒲教会

Cコース(ヒムプレーヤー)：勿来教会、錦林教会

*以上の3件に送金いたしました。

また3つの教会に「教会学校応援セット」を送りました。

残金は広報費等に用いました。

「子どもたちのいる教会」

白岡菖蒲教会 牧師 東海林昭雄

子どもたちの存在は希望であり、大きな慰めと励ましを与えてくれます。

白岡菖蒲教会は、昨年5月から新しい地において開拓伝道を始めました。

(そのため菖蒲教会より名称を変更しました)何もないところからの一歩でしたが、その踏み出しに大きな力を与え、そして教会学校の再開のチャンスくれたのが二人の幼い姉弟でした。教材も整っていない中、教育委員会より「教会学校応援セット」を頂きましたが、その中に込められた想いを深く受け止め心熱くされました。

これらの子どもたちが小さなキリストとなり、主を賛美し、宣べ伝える者として活躍してくれることでしょう。



子どもたちから学ぶべきことがたくさんあります。